

平成28年度

教育に関する事務の管理及び
執行状況の点検及び評価報告書

平成29年9月

根室市教育委員会

目 次

I	はじめに	P 1
II	点検評価の基本方針	P 1
III	点検評価の結果	P 3
	(1) 「確かな学力向上」に向けた取組の推進	P 3
	(2) 「豊かな人間性の育成」に向けた取組の推進	P 8
	(3) 特別支援教育の充実	P10
	(4) 教育効果を高める教育環境の整備・充実	P12
	(5) 地域で子どもを育てる環境づくりの充実	P15
	(6) 歴史・文化・スポーツ振興と社会教育活動の充実	P18
	学識経験者の意見（総評）	P31

I はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされております。

本報告書は、同法に基づき教育委員会が行った平成28年度事務事業の点検評価の結果をまとめたものです。

II 点検評価の基本方針

1 目的

教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況を自ら点検評価し、その結果を議会に報告するとともに市民に公表します。

この点検評価は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たしていくことを目的としています。

2 点検評価の対象及び方法

本点検評価の対象は、前年度（平成28年度）の事務事業の実績とし、その範囲は、学校での学習指導・生徒指導に関することや、社会教育に関することなど、地教行法第21条で「教育委員会の職務権限」と規定されている事務をはじめ、市長の補助執行として行っている事務など、本委員会が所管する全ての事務事業としています。

当教育委員会では、毎年、教育行政の取組方針を教育行政方針として策定し、市議会に示しておりますが、本報告においては、平成28年度の教育行政方針に掲げられた主な施策の実施状況等を参考としながら、その管理及び執行の状況について点検評価を実施いたしました。

3 学識経験者の知見の活用

本点検評価の実施にあたっては、地教行法第26条第2項の規定により、3名の学識経験者から個別に意見を伺い、その知見の活用を図りました。

なお、学識経験者は、学校教育分野及び社会教育分野において教育や人材育成に携わり、高い見識を有する方から選任し、幅広い観点での知見を活用するよう努めたところです。

○ 丸 山 マサル 氏 元 根室市立函舞中学校 校長

○ 原 田 純 子 氏 根室市社会教育委員 委員長

○ 島 津 亨 泰 氏 根室市P T A連合会 副会長

〔参 考〕

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

Ⅲ 点検評価の結果

(1)「確かな学力向上」に向けた取組みの推進

執行方針

子どもたちが社会を生き抜く力を育むためには、何よりも、教育の機会均等とその水準の維持向上が求められているところでありますが、現在の根室市の児童・生徒の学力につきましては、直近の全国学力・学習状況調査の結果においても、全道・全国平均には依然として達しておらず、今後とも、「根室市確かな学力向上に関する取組方針」に基づき、学力の向上に取り組んでいくことが必要であります。

- 学校におきましては、引き続き、巡回指導教員による若手教員の指導や、学力向上補助教員を活用した習熟度別指導、チーム・ティーチングなどにより、教室における子どもの「学び方」の定着に取り組み、「基礎・基本」の徹底を基盤とした日常的な教育活動の充実を図ってまいります。
- 全国学力・学習状況調査や、現在、学習内容の定着状況を把握するため全小中学校で導入しております標準学力検査いわゆるCRTなど、学力に関わる各種調査の結果を詳細に分析し、個々の児童・生徒の課題を明確化することで、指導方法の工夫・改善や授業改善を行い、各学校の状況に応じた学力向上への取組を進めてまいります。
- 子どもたちの家庭での学習習慣や規則正しい生活習慣を定着化させるため、「生活リズムチェックシート」の活用に取り組みなど、家庭との更なる連携に努めるとともに、夏季休業期間中に実施する大学生を活用した学習サポート事業に新たに宿泊学習を導入し、参加者の増を図りながら、確かな学力向上につなげてまいります。

主な事業内容等

事業名等	場所等	参加者等	備考
学校評議員の全校委嘱	市内小中学校	43名	
学校評議員会議の開催	市内小中学校	31回	
学校評価の実施	市内小中学校	15校	
初任段階研修	各学校他	20名	法定研修 (1年次6人、2年次5人、3年次9名)

10年経験者研修	各学校他	5名	法定研修
各種教員研修	北海道教育研究所他	123名	
校内研修の実施	市内小中学校	全校	
指導主幹の学校経営訪問	市内小中学校	24回	
指導主事等の学校派遣	市内小中学校	33回	
校長連絡会議	総合文化会館	12名	13回
教頭連絡会議	総合文化会館	15名	12回
北海道教育大学釧路校新入生研修	花咲港小学校 海星小中学校 落石小学校 厚床小中学校	43名	大学生研修
北海道教育大学釧路校へき地校体験実習	花咲港小学校	2名	大学生研修
根室市教育研究会との連携	各小中学校など		
学力向上補助教員	北斗小学校 花咲小学校 成央小学校 歯舞小中学校 光洋中学校 柏陵中学校 啓雲中学校	1名 1名 1名 1名 1名 1名 1名	
巡回指導教員の配置	成央小学校	1名	北斗小、花咲小に派遣
指導方法工夫改善教員定数加配	北斗小学校 花咲小学校 光洋中学校 柏陵中学校	2名 1名 2名 1名	教員定数の加配
退職教員等の外部人材活用事業時間講師の配置	花咲小学校 柏陵中学校	1名 2名	
理科備品整備事業	各小中学校	15校	小 920千円 中 880千円
総合学習推進事業	各小中学校	15校	
水産教育の推進	歯舞小学校 歯舞中学校	100名 46名	
語学指導の充実	小学校8校 中学校7校	1名 1名	民間人講師 外国語指導助手
全国学力・学習状況調査の実施	各小中学校	212名 229名	小学校6年 中学校3年

夏休み学習サポート教室の開催	別当賀夢原館	3名 5名	小学5～6年 中学3年
児童生徒支援教員の加配	成央小学校 光洋中学校 啓雲中学校	1名 1名 1名	
キャリア教育の実施	市内中学校	7校	職場体験学習等
愛鳥活動モデル校	厚床小学校	23名	北海道指定
スクールバスの運行	11路線 8小中学校	156名	
遠距離通学費の支給	北斗小学校 光洋中学校 柏陵中学校	3名 7名 1名	
学校健診の実施	各小中学校	1,919名	
学校給食における食物アレルギー 対応マニュアルの作成	各小中学校		平成28年4月施行
全国体力・運動能力・運動習慣等調 査の実施	各小中学校	201名 199名	小学校5年 中学校2年

施策評価

- 学校評価については、自己評価及び学校関係者評価が全ての小中学校で実施されており、学校の経営改善に効果をあげている。
- 教職員研修については、教育公務員特例法などに規定する法定研修である初任者研修、10年経験者研修などを活用し、関係する教職員が積極的に研修に参加し研鑽を積んでいる。
また、北海道立教育研究所主催の研修や校内研修などを通じて教職員の育成が図られているほか、夏季休業期間中に北海道立教育研究所との共催により研修会を実施し、教員の指導力向上に努めている。
- 北海道教育委員会と連携し、小中学校の要請に応じ、全校へ教育局の指導監及び指導主事並びに市教委学校教育指導主幹を派遣し、学校教育に係る専門的事項の指導を実施し、学校教育の充実を図った。
- 校長会、教頭会との連絡会議を毎月開催し、教育委員会からの指示、連絡事項を直接伝え、校長、教頭との連携を密にして円滑な学校教育の実施に努めている。
- 北海道教育大学釧路校との協定に基づき、へき地校において同大学新入生研修や体験実習を受け入れ、へき地校の実態に直接触れることで、今日の教育の諸課題に対応する高い教育実践力・諸課題解決能力を持つ教員の育成に寄与している。

- 北海道公立小中学校教職員広域人事要項に基づき、広域人事を実施し、他管内との人事交流を実施しており（中堅教員の受入れ1名、若手教員の派遣2名）、今後においても、学力向上や生徒指導等教育課題の改善を目的とし、人事交流を推進する必要がある。また、管内においても、根室市の教職員の年齢構成が偏り若年教員が多いことから、さらに教職員人事を通じて年齢構成の適正化を図る必要がある。
- 市内の教職員で組織する根室市教育研究会の研修活動は、教職員の資質向上や教師力の向上など学校教育に果たす役割が大きいことから、同研究会との連携に配慮するよう努めている。
- 標準学力調査（CRT）の結果に基づき、児童生徒の基礎的・基本的な学習内容の定着状況を把握し、各学校における学習指導の充実に資するため、教職員を中心とした根室市学力向上プロジェクト推進会議を設置し、調査結果分析、指導方法の工夫改善及び授業改善に努めている。
- 「根室市確かな学力向上に関する取組方針」に基づき、各学校において、家庭での学習習慣定着の必要性を保護者に訴えるなどの取組を行った。
- 指導体制の充実を図るため、市費により導入している学力向上等補助教員を平成28年度は北斗小学校・花咲小学校・成央小学校・光洋中学校・柏陵中学校・啓雲中学校・歯舞小中学校の7校に各1名配置し、習熟度別指導、チーム・ティーチング指導、放課後補習指導や長期休業中の補習等を行い、きめ細かな指導と確かな学力の定着を図った。
 しかし、年度途中で欠員が生じ、多方面への人材確保要請にもかかわらず、通年で配置することができず、人材確保に課題が残った。
- 指導経験の豊富な教員1名を巡回指導教員として、拠点校となる成央小学校に配置し、北斗小学校及び花咲小学校併せて3校の若手教員の指導力向上を図った。
- 小学校2校、中学校2校で教員定数の加配を受けて、指導方法の工夫改善事業を実施し、習熟度別指導やチーム・ティーチングの実施により、生徒個々に応じたきめ細かな学力の定着を図った。
- 各学校において、学力向上に向けた具体的な取組みを学校経営方針に位置付けさせた。
 また、各学校の進捗状況や効果について、定期的にヒアリングを実施した。
- 国の補助を得て、全ての小中学校において理科備品整備を実施したが、より効果的な学習環境を確保するため、理科備品をはじめとした教材備品について、継続的に整備を続けていく必要がある。
- 朝読書、朝学習、補習授業を全ての小中学校で実施した。

- 総合的な学習の時間を推進し、地域の人材を講師として活用し、自ら学び自ら考える力の育成を図った。
- 特色ある学校づくりの一貫として水産教育を実施している学校及び PTA に対し、その活動を支援し産業教育の振興を図った。
- 語学指導の充実と国際理解を図るため、英語を母国語とする外国語指導助手を招致し、市内小中学校に派遣して、語学の習熟と国際理解の推進に大きな成果をあげた。
- 小学校の外国語活動のために市内の英会話スクールと契約し、小学校へ外国人講師を派遣し、児童が外国語について興味関心を持つよう図った。
- 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、引き続き、学力向上に向けた取組を徹底するとともに、学校全体の学習環境の見直しや正答率の低い児童生徒の学習状況を改善するなどの取組を実施した。
- 夏休み学習サポート教室については、参加児童生徒数の減少に伴い、昨年までの総合文化会館での教室学習から、別当賀夢原館での宿泊型のサポート教室に変更し、異年齢交流学习をはじめ、軽スポーツ交流の時間も取り入れるなど新たなカリキュラムにより、児童生徒が主体的に学ぶ態度の育成を図ったが、参加者は8名に留まり、効果は限定的であることから、今後の実施内容について検討が必要である。
- 国の教職員定数の加配を受け、成央小学校・光洋中学校・啓雲中学校の3校に各1名教員を配置し、児童生徒の生徒指導上の支援の改善を図った。
- 子どもたちが「生きる力」を身に付け、社会人・職業人として自立していくことができるよう、キャリア教育の推進が強く求められており、全ての中学校で職場体験等を実施した。
- 厚床小学校では、PTA の協力により学校裏の森を自然学習の場「鳩の森」として整備し、北海道の愛鳥活動モデル校の指定を受け、野鳥観察などを通して自然や環境に対する学習を深めるなど、著しい成果をあげている。
- 通学の負担の大きい地域の児童生徒に対するスクールバスの運行や路線バス代の支給を行い、通学の安全の確保を図った。
- 学校健診の実施を通じて、児童生徒の健康の増進を図り、学校教育活動の円滑な実施に大きな効果をあげている。
- 児童生徒が安心安全な学校生活を送ることができるよう「学校給食における食物アレルギー対応マニュアル」を作成し、市内小中学校のアレルギー対応の統一化を図ることとした。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小学校第5学年、中学校第2学年）において、小学校、中学校男子においては全国平均を上回る種目も見られるが、中学校女子は全種目が全

国平均より下回る結果となったことから、各中学校において、喫緊の課題として体力・運動能力向上対策を検討する必要がある。

(2)「豊かな人間性の育成」に向けた取組みの推進

執行方針

子どもたちが互いを尊重し、ともに支え合いながら社会の一員として成長していくためには、学校・家庭・地域が連携しながら、心身の健やかな発達を支えていくことが大切です。

- 心の教育にかかわりましては、このたび策定した「根室市いじめ防止基本方針」に基づき、地域や学校において、スマートフォン等による「ネットいじめ」を含めた、いじめ防止のための啓発や学習などに取り組むほか、関係団体との連携体制の充実に努め、常に緊張感を持ちながら、いじめの根絶を目指してまいります。
- 郷土を愛し、発展させていこうとする気持ちを育むため、29年ぶりに改訂した社会科副読本「ねむろ」や、各種教材の活用を図るとともに、特に北方領土教育につきましては、各学校において資料コーナー等を活用するなど、返還要求運動原点の地としての積極的な取組を継続してまいります。

主な事業内容等

事業名等	場所等	参加者等	備考
根室市青少年問題協議会 いじめ対策専門部会	総合文化会館	14名	
いじめ相談室の開設	青少年相談室内		
インターネットを活用したいじめ 相談の実施	根室市ホームページ		
電子メールを活用したいじめ相談 の実施	根室市ホームページ		
スクールカウンセラー活用事業	啓雲中学校	1名	北海道委託事業
適応指導教室『ふれあいくらぶ弥生』 の開設	ふれあいくらぶ弥生	1名	
人権擁護委員会事業の取り組み	各小中学校		人権作文、人権の花
子ども安全ネットによる情報発信	電子メール	15回	

防犯教育の推進	各小中学校		
子ども110番の家	根室市内	245箇所	
e-ネットキャラバン「e-ネット安心講座」	総合文化会館	25名	
北方少年少女塾への参加	小学校4校 中学校3校	145名 128名	北斗小・花咲小・厚床小・歯舞小・光洋中・歯舞中・啓雲中
北方領土弁論大会への取り組み	7中学校	10名	光洋中・柏陵中・落石中・厚床中・歯舞中・啓雲中・海星中

施策評価

- 北海道教育委員会のスクールカウンセラー事業を活用し、啓雲中学校にスクールカウンセラーを配置し、生徒の悩み相談や、保護者の相談、教員へのサポートを通じ、安心して学校生活を送ることができるよう活動を行い、配置校から高い評価を得ている。
- いじめ相談室の開設やインターネットや電子メールでのいじめ相談ができるホームページを開設し、面談、電話を含め相談しやすい環境を引き続き実施した。
- いじめや問題行動への対応について、学校間、教員間で意識に差があり、被害者側とトラブルに発展することがあることから、さらに校内指導体制を徹底し、保護者や地域と連携を図りながら、全員一致で毅然とした対応を取ることが必要である。
- 適応指導教室を開設し相談員を配置して、各学校と連携を図りながら不登校の問題を中心に児童生徒及び保護者に対する相談活動などにより支援にあたったが、引きこもり傾向の強い不登校児童生徒に対しては、適切な働きかけをさらに継続していく必要がある。
- 学校、北海道教育委員会、市介護福祉課、児童相談所、警察などと連携を図り児童生徒の問題行動及び児童生徒に対する虐待の疑いについて迅速かつ適切な対応を行った。
- 人権擁護委員会と法務局の協力により人権作文と人権の花運動を実施し、児童生徒が思いやりの心を体得し豊かな人権感覚を身に付けることに一定の効果をあげている。
- 子どもの緊急避難場所となる子ども110番の家について、市内245箇所を登録して一定の効果を上げているが、引き受けていただいている商店などの廃業により、登録件数が減少している。
- 市内小中学校では、警察と連携して防犯教室を積極的に実施し、児童生徒に犯罪を避ける力をつけさせるとともに、教職員も訓練を通して危機管理能力の向上を図った。
- 子ども安全ネットによる電子メールの発信により、不審者情報の共有化と保護者の防犯意

識の高揚を図った。

- 様々な対策をとっているにも関わらず、不審者による声掛け事例が後を絶たないため、より一層関係機関が一体となった安心安全体制の確立を図ることが必要である。
- 弁論大会などを通じて中学生の北方領土学習の推進を図った。

(3) 特別支援教育の充実

執行方針

根室市においては、特別な支援を要する児童生徒の割合が増加しており、こうした子どもたちに対しては、個々のニーズに応じた早期からの一貫した支援を図っていくことが大切です。

- 市独自の「個別の教育支援計画」の基本ツールとなる「子育てファイル”りんくす・ねむろ”」を、乳幼児から中学生までを持つ全家庭に配布しているところであり、今後、対象となる子どもを持つ保護者を中心に全市的な普及促進に努めるとともに、保育所・幼稚園・学校など関係機関と連携を図りながら、子どもたち一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行ってまいります。

主な事業内容等

事業名等	場所等	参加者等	備考
特別支援学級の設置	各小中学校	57名 28名	小学校6校19学級 中学校6校17学級
通級指導教室の設置	花咲小学校	55名	
通級指導の充実	花咲小学校	4名	担当教員の加配
特別支援教育コーディネーターの指名	各小中学校	15校	
特別支援教育校内委員会の設置	各小中学校	15校	
特別支援教育支援員の配置	市内6校	6人	
介助業務員の配置	花咲小学校	2名	
就学指導の実施		54名	
特別支援教育パートナー・ティーチャー派遣事業	11校	79人	児童生徒の指導に対する支援

子ども発達支援事業・専門支援事業	10校	30人	専門家による学校支援
巡回教育相談の実施	花咲小学校	12名	
根室市教育支援委員会「早期支援部会」の設置・開催		36名 (2回)	教育行政関係2名 保健行政関係1名 福祉行政関係4名 学校関係者20名 福祉施設関係4名 民間幼稚園・保育所5名
特別支援教育専門員の配置		1名	
特別支援教育専門員の研修		4回	
根室市育ちと学びの相談室『りんくす』の設置			
子育てファイル「りんくす・ねむろ」の配布		329冊	母子手帳配布時及び中学3年生以下転入時に配布
根室市特別支援教育研修会		267名	市主催の研修会の他、北海道教育大学及び特別支援教育センターの事業を活用
保護者向けペアトレーニングの実施		14回	延べ90名参加

施策評価

- 北海道教育大学釧路校教授を講師に招き、特別支援教育コーディネーター及び特別支援学級担当教員等を対象とした研修会を開催し、中核を担う教員の資質能力の向上を図った。
- 特別支援教育支援員を、引き続き市内の6小中学校に配置し、特別支援教育の充実を図った。
- 通常学級における学習活動上の支援を必要とする生徒に対し、介助業務員を配置して支援を行い、学校における教育環境の整備に努めた。
- 入学や進級にあたって教育措置の検討が必要な幼児・児童生徒に対し、教育相談や就学指導を行い適切な教育措置の決定を行った。
- 道立特別支援学校からのパートナー・ティーチャーの派遣により、特別に支援を必要とする児童生徒について、より専門的な助言・援助を受け、特別支援教育の質の向上を図った。
- 北海道特別支援教育センターからの相談員の派遣により、障害を持つ児童生徒の状況や就学についての保護者相談を実施し、適正な就学の決定に資することができた。

- 特別支援教育の要となる特別支援教育コーディネーターの専任化を含め、特別支援教育推進のための教員の加配措置について、継続して国に働きかける必要がある。
- 花咲小学校に開設の通級指導教室に担当教員を4名配置し、発達障害児に対する特別支援教育を行った。今後とも、遠距離で通級に係る負担の大きい児童の対応について、北海道教育委員会に対し強力に働きかける必要がある。
- 市が実施する子ども発達支援事業を活用し、特別な支援を必要とする児童生徒が、作業療法士等の専門的支援を受ける機会を確保するよう努めた。
- 乳幼児期からの一貫した支援を目指し、教育・保健・福祉分野の多岐にわたる相談業務や関係機関との連携体制を構築し、特別支援教育の充実を図るため、今年度も「根室市特別支援教育専門員」を教育委員会事務局に配置した。
- 子どもが地域で生活し、主体的に社会参加しながら心豊かに生きていくことができるよう、子どもや保護者をはじめ子どもの支援に関わる全ての関係者の不安解消を図るとともに、教育・保健・福祉等の各分野をつなぎ、早期から一貫した支援を行うため、今年度も「根室市育ちと学びの相談室『りんくす』」を教育委員会事務局に設置した。
- 市独自の「個別の教育支援計画」の基本ツールとなる「子育てファイル『りんくす・ねむろ』」を、乳幼児から中学生までを持つ全家庭に配布した。
- 子どもの行動を理解し、適切なかかわり方を身につけるとともに、子ども自身においても自己肯定感を高める効果を期待できる保護者向け研修会「ペアレントトレーニング」を、今年度もこども子育て課、根室振興局福祉課と教育委員会が連携して実施した。

(4) 教育効果を高める教育環境の整備・充実

執行方針

全国的に子どもの数が減少している中、根室市の児童・生徒数は約2千人とピーク時の4分の1以下となっており、また、小・中学校の校舎・体育館総面積の7割近くが築40年以上と老朽化が進んでいることから、今後とも、児童・生徒が安心して充実した学校生活を送ることができるよう、計画的に教育環境の整備を進めていく必要があります。

- 小中学校の適正配置につきましては、昨年実施したアンケート調査結果を勘案しながら、このたび「根室市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」を一部改定するとともに、新たに「根室市立小中学校適正配置計画」を策定したところであり、今後、学校、

保護者、地域の方々に対する丁寧な説明に心掛け、ご理解を得るよう努めながら、計画の推進を図ってまいります。

- 学校施設の耐震化・老朽化対策として、歯舞中学校校舎・屋内運動場の耐震改修工事や、落石中学校グラウンドの改修工事を実施するとともに、厚床小学校外構工事及び厚床中学校グラウンド改修工事を実施し、更に、老朽化の著しい鉄棒・ジャングルジムなどの遊具について計画的に整備を進めるほか、教職員の住環境につきましても計画的な整備に努めてまいります。
- 学校におけるICTの利活用につきましては、現在、将来的な校務支援システムの導入について根室管内1市4町が一体となって検討を進め、教職員の負担軽減と教育の質の向上を目指しているところであり、今後とも学校と十分に連携を図り、教育情報化推進計画の策定など、当市における情報教育の方向性を明らかにしながら、情報化を推進してまいります。
- 引き続き、多子世帯における学校給食費の無料化を継続して保護者の経済的負担を軽減し、子育て世帯における教育環境の整備・充実を図ってまいります。

主な事業内容等

事業名等	場所等	参加者等	備考
安全な学校給食の実施	各小中学校	1,919名	
学校安全計画及び避難マニュアルの策定	15小中学校	—	
根室市学校防災等連絡会議の開催	総合文化会館	19名	

【市街地地区適正配置に係る説明会開催状況】

月日	内容	参加者	場所
4月13日	柏陵中学校PTA理事会に合わせ説明会実施	8名	柏陵中学校
4月14日	光洋中学校PTA二役会議に合わせ説明会実施	9名	光洋中学校
4月15日	北斗小学校PTA三役会議に合わせ説明会実施	7名	北斗小学校
	成央小学校PTA二役会議に合わせ説明会実施	8名	成央小学校
4月18日	花咲小学校PTA二役会議に合わせ説明会実施	8名	花咲小学校
4月20日	啓雲中学校PTA理事会に合わせ説明会実施	35名	啓雲中学校
6月3日	花咲港小学校PTA理事会に合わせ説明会実施	18名	花咲港小学校

【厚床地区小中学校併置校開校準備委員会等の開催状況】

月 日	内 容	参加者	場 所
5月18日	第10回厚床地区小中併置校開校準備委員会（総務部会）の開催 ・平成28年度実施事業について	12名	厚床会館
11月30日	第11回厚床地区小中併置校開校準備委員会（総務部会）の開催 ・中学校グラウンド整備・校舎大規模改造事業について	12名	厚床小学校

【学校施設や教員住宅の整備のための主な取組み】

（単位：千円）

事 業 名 等	事 業 内 容	事業費
歯舞中学校校舎・屋体耐震改修事業	歯舞中学校校舎・屋体耐震補強・大規模改修工事	270,166
厚床小学校校舎改築事業	厚床小学校外構工事	33,264
厚床中学校屋内運動場改築事業	旧厚床中学校屋内運動場解体工事	19,716
小中学校消防用設備等整備事業	消防用設備等改修工事	2,364
小学校校舎及び教員住宅営繕事業	市内8小学校・教員住宅の営繕（主なもの） ・花咲、成央小学校グラウンドフェンス修理 ・各学校暖房機器修理	8,193
中学校校舎及び教員住宅営繕事業	市内7中学校・教員住宅の営繕（主なもの） ・啓雲中学校屋内運動場ライン改修工事 ・光洋中学校オイルサーバー設置工事	13,994
教員住宅シャワー設置事業	教員住宅シャワー設置工事 2戸	810
小学校教育環境整備事業	・小学校屋外遊具の整備（設置） ・児童用机の天板購入及び黒板のリフェース等整備	7,184
中学校教育環境整備事業	生徒用机の天板購入及び黒板のリフェース等整備	1,323

施策評価

- 小中学校の適正配置については、新たな「根室市立小中学校適正配置計画」をもって、市街地地区4小学校及び3中学校のPTA役員会等に合わせ説明会を開催し、様々な意見をいただいた。

今後は、PTA会員並びに町内会に対し説明を実施し、適正配置の推進に向けて理解を深めていく。

- 歯舞中学校の校舎及び屋内運動場については、耐震補強工事を行ったほか、併せて実施した大規模改修工事によって、老朽化した屋根や外壁を改修し雨漏りの解消、窓枠の改修やLED照明の導入等を行い、教育環境の向上を図った。

また、屋内運動場については耐震補強・老朽化対策のほか、照明器具等の落下防止対策を実施し、安全性の向上を図っていく。

- 落石中学校グラウンド及び厚床中学校グラウンド改修工事については、国庫補助事業の年度当初採択を見送られたが、粘り強い要望により年度途中の追加採択となった。

しかしながら、グラウンド改修は冬期間の施工になじまないことから、平成29年度に事業を繰り越すこととした。

- 平成26年度から実施していた厚床小学校の改築については、国道から玄関までの通路整備や駐車場の整備を終え、計画を全て完了した。

今後は、老朽化した厚床中学校校舎を改修し、厚床地区の教育環境改善を図っていく。

- 小学校のグラウンドに設置している遊具について、専門業者による点検に基づき、劣化の著しい遊具の撤去を行った。

また、各学校からの要望に基づきすべり台、うんていの設置を行った。

今後も、児童の体力向上と安心して外遊びができる環境づくりのため、計画的に整備を推進していく。

- 教職員の住環境については、民間活力を活用した新築住宅の整備を目指し、老朽化した既存住宅を解体し建設敷地の確保に努めた。

- 根室市における教育情報化の方向性を明らかにするため、根室市教育情報化推進計画策定委員会を立ち上げ、計画の策定に着手した。

- 給食の安全と、地産地消をさらに進めるため、新たな給食調理施設の建設が今後の課題であり、検討を進める必要がある。

(5) 地域で子どもを育てる環境づくりの充実

執行方針

地域の教育力を高め、社会全体で学校や子どもたちの活動を支援するためには、地域コミュニティを核とした取組や、家庭が抱える課題に対応した支援の充実が大切です。

- 子どもの放課後活動につきましては、留守家庭児童会の登録児童数が増加傾向にある一方で、指導員の人員確保が難しい状況となっていることから、今後、指導員の体制整備や登録児童の定員拡充に努めるとともに、引き続き、地域の方々の参画を得ながら、すべての子どもたちが安全・安心で多様な体験・活動を行うことができる居場所づくりを目指してまいります。
- 次代を担う子どもたちの心身ともに健やかな育成が図られるよう、高齢者とのふれあい事業や清掃奉仕活動など、四季折々に長年実施してきた各種事業につきましては、今後とも、学校や町内会、関係団体などと協働しながら、着実に推進していくほか、引き続き、小中学校の教育活動に地域の専門的な知識・経験を有する人材を活用するなどして、「地域全体で子どもを育てる」意識の高揚に努めてまいります。
- これからの地域活動やまちづくりに参画する青少年活動リーダーの養成を目指す「根室市中高生友好のかけはし事業」につきましては、研修内容に新たに根室市の特産品流通部門を加えるなど、内容充実の上、引き続き黒部市を研修地として実施してまいります。
- 子どもたちの読書活動の推進につきましては、乳幼児期における「ブックスタート事業」と、それに続く小学校1年生児童を対象とする「セカンドブック事業」を継続して実施するとともに、家族みんなで本を読みコミュニケーションを図る新たな読書スタイル「家読（うちどく）」の普及に努め、また、図書館が学校に出向いて本の紹介や読み聞かせを行うなど、家庭、学校、地域と連携・協働しながら、子どもたちの読書環境づくりに努めてまいります。

主な事業内容等

【子どもの放課後活動】

事業名等	場所等	開催日	参加者等	備考
放課後子どもプラン事業	放課後教室等	4月～3月	4,331名	101事業
放課後教室・西浜児童会館の開設	放課後教室等	4月～3月	42,794名	
歯舞児童教室の開設	歯舞児童教室	4月～3月	6,545名	
花咲港児童教室の開設	花咲港児童教室	4月～3月	2,074名	
ねむろわんぱくチャレンジ事業	各施設等	4月～3月	ブロンズ賞 37名 シルバー賞 25名 チャレンジ大賞 14名 マイスター 3名	
根室市中高生友好のかけはし	黒部市等	5/28～ 1/25	9名	事前研修3回、 本研修(8/4～8)

し事業				事後研修 3 回 (学校発表含む)
子どもの日のつどい	総合文化会館	5/3	1,000 名	
高齢者とのふれあい事業	西浜児童会館	5/14~ 1/28	121 名	4 回
人材バンク事業	市内	4 月~3 月	264 名	放課後教室関係、 図書館ボランティアなど
子ども会リーダー研修	総合文化会館他	6/25~ 12/3	91 名	6 回
子ども長靴アイスホッケー大会	市営リンク等	2/5	183 名	20 チーム
子ども百人一首カルタ大会	青少年センター	1/22	33 名	11 チーム

【読書活動の推進】

事業名等	開催日時	参加者等	備考
ブックスタート事業	毎月	回数 12 回 対象親子 173 組	参加率 100%
セカンドブック事業	11/9 ~29	市内 8 小学校 1 年生児童=179 名	15 冊の図書リストから 希望の 1 冊を贈呈し、趣旨 を含め読書普及した。
読書推進 学校等訪問事業	随時	件数 18 件 参加人数 880 人	(内訳) 小学校・中学校・放課後教 室=14 件・755 人 「訪問おはなし会」子育て 支援施設=4 件・125 人
図書館訪問・調べ学習受け入れ	通年	保育所・小中学校 15 件・605 人	調べ学習 3 件 163 人(内数)
学級文庫ブックバンク事業	5~11 月	60 クラス 1,400 人	小学校 41 クラス 中学校 19 クラス
職業体験学習・図書館実習・ 教員研修	随時	9 件 22 人	中学 4 校/12 名 高校 2 校/5 名 短大 2 校/2 名 教員 1 件/3 名

施策評価

- 留守家庭児童会の登録児童が増加していることから、成央小学校の余裕教室 1 室を改修し、

成央留守家庭児童会の定員 20 名を拡大するとともに、放課後の居場所づくりとして児童が安全に遊べ、集団活動を通して健やかに成長できるよう、放課後教室・児童教室の運営に努めた。

- 西浜児童会館の指導員体制を整えることができなかったことから 4 月から 12 月まで 9 ヶ月間臨時休館としたが、指導員を確保し 1 月から開館することができた。
- 地域の方々を講師として、絵本の読み聞かせや草花の観察、ニューススポーツ体験、高齢者との交流など、各種事業をとおして、学習や自然体験、異世代間交流などの推進に努めた。
- 「子ども会リーダー研修会」は、清掃ボランティアや募金活動、宿泊研修などを通して、社会性や責任感、集団活動での協調性を養いリーダー育成に努めた。
- 「教えて地域の先生」は、小中学校からの申し込みを受け、地域のボランティア講師を「地域の先生」として、ラジオ体操や着物の着付けなどの指導を行い、「子どもは地域で育てる」環境の醸成に努めた。
- 「根室市中高生友好のかけはし事業」は、将来の地域づくりの担い手となるリーダー育成を図るため、市内の中・高校生 9 名を黒部市に派遣し、産業や自然を学ぶとともに、黒部市と対比し、根室市の歴史や自然などと併せて、特産品である昆布についての学習を盛り込み、根室を再認識することに努めた。
- 「ブックスタート事業」のフォローアップとして、個性あふれる学童期を迎えた子どもたちがあらゆる場所において、いつでも・どこでも読書に親しむきっかけ作りや読書習慣の形成を図ることを目的に、市内すべての小学校 1 年生児童に本を贈る「セカンドブック事業」を今年度も「ブックスタート事業」と同様に継続実施した。

この 1 冊をきっかけに、家族での「読書コミュニケーション」（家読）の広がりや暮らしの中に、身近に本のある環境づくりをする絶好の機会となったと好評を得た。

(6) 歴史・文化・スポーツ振興と社会教育活動の充実

執行方針

市民一人ひとりが心豊かで充実した人生を送るためには、生涯を通じて積極的に学ぶとともに、その成果を生かせる環境づくりが大切であり、それに合わせ、様々な学習機会や情報を提供する取組を進めていくことが必要です。

- 公民館活動につきましては、市民が自主的・主体的に参画する社会教育活動の推進や、幼児期から高齢期までにわたる学習機会の充実に努めるとともに、公民館分館活動につきましては、

地区ごとの懇談会やアンケート調査などから把握した住民ニーズを踏まえながら、事業の更なる充実に取り組み、学びを通じた地域住民のつながりや仲間づくりが一層図られるよう努めてまいります。

- 本年は黒部市との姉妹都市提携40周年を迎えますことから、両市の市民による記念コンサートを当市において開催する文化交流活動を支援してまいります。
- 文化振興につきましては、根室市が誇る道内有数の歴史遺産と自然環境の価値や重要性を次世代に正しく伝え、その適切な活用が可能となるよう、貴重な郷土史の掘り起こしを行うなど、博物館活動の充実に努めますとともに、引き続き、根室市における博物館拠点施設の在り方等について検討を進めてまいります。
- 日本百名城の選定により来訪者が急増している国指定史跡「根室半島チャシ跡群」を始めとする文化財につきましては、歴史と自然の資料館を拠点とした適切な保護のもと、積極的な保存・活用や情報発信等ができるよう、取組を進めてまいります。
- スポーツ振興につきましては、「市民一人1スポーツ」の更なる推進を図るため、指導者養成を始め、スポーツ少年団の育成・活動支援、ニュースポーツの普及、各種スポーツ教室の開催など、各種団体と連携・協力のもと、市民それぞれのライフステージに見合ったスポーツ環境の整備に努め、また、当市を会場とする平成29年度国体軟式野球の予選実施を見据え、運動広場の水はけ改善や市営球場のトイレ改修を実施するほか、パークゴルフ場のスタート台の改修など施設の整備に努めてまいります。
- 総合体育館の建設に向け新たな基金を創設し、市民の機運の醸成を図るとともに各スポーツ団体との意見交換や要望集約などを行いながら、根室市スポーツ推進審議会において望ましい総合体育館の在り方等について論議を深めてまいります。
- 図書館活動につきましては、今後とも、利用者の利便性向上のため、利用環境の整備・充実に努めながら、高齢者施設への配本サービスや、「おとな」の読書推進を図るための読書会の企画などに取り組み、市民の読書の楽しみを支援してまいります。

主な事業内容等

【社会教育活動】

事業名等	場所等	開催日	参加者等	備考
文化賞贈呈式	総合文化会館	11/3	68名	文化奨励賞1個人
成人式	総合文化会館	1/8	204名	

若ものの学園	総合文化会館 他	5/28~11/28	41名	3講座6回
青年交流事業 ・バスツアー ・ボウリング大会	納沙布岬 金刀比羅神社 ボウリング場	7/17 1/28	3名 24名	
根室市青年国内研修事業	島根県	2/9 ~ 2/12	1名	島根県抹茶工場視察

【別当賀夢原館利用状況】

項 目		平成 28 年度		
		利用件数	利用者数	
利 用	高校生以下	0 件	0 名	
	一 般	87 件	454 名	
	市 事 業	1 件	3 名	
利 用 計		88 件	457 名	
使 用	専 用	一 般	42 件	982 名
		市の事業	4 件	103 名
		専 用 計	46 件	1,085 名
	宿 泊	高校生以下	8 件	263 名
		一 般	17 件	303 名
		市の事業	1 件	8 名
		宿 泊 計	26 件	574 名
使 用 計		72 件	1,659 名	
合 計		160 件	2,116 名	

【文化会館活動】

事業名	場 所	開催日・回数	参加者等
各種団体との連携による事業 ・第 23 回シルバー合唱団交流演奏会 ・第 63 回写真道展根室巡回展 ・平成 28 年度合唱のつどい ・第 47 回北海道教職員美術展 「地方移動展 in 根室」	総合文化会館	9/10 9/30~10/5 11/13 1/25~30	220名 681名 1,700名 818名
舞台芸術鑑賞事業	総合文化会館	9/16、2/14、3/15 3回	1,686名

グループ美術展	総合文化会館	6/26~28	720名
二科会写真展根室巡回展	総合文化会館	2/3~7	423名
2017 みんなでオンステージ in ねむろ	総合文化会館	2/19	750名
姉妹都市黒部市文化作品交流事業	黒部市	10/28~11/1	—
児童生徒音楽大会	総合文化会館	9/25	1,668名
(その他) 大ホール使用状況	総合文化会館	55件	26,146名
小ホール使用状況	総合文化会館	31件	5,576名

【公民館活動】

事業名	場 所	開催日・回数	参加者等
パパママ学級(旧母親教室)	公民館	5/15~3/10 年4期	30名
あそびの広場 (旧親子で学ぶふれあい教室)	公民館	5/13~2/17 14回	469名
伝統文化・郷土芸能体験 プログラム	各小学校	6/2~3/3 8校	239名
成人学校(18講座)	公民館 他	6/7~3/15 年3期	186名
音訳ボランティア養成講座	公民館	5/12~8/3 13回	3名
寿大学	公民館 他	4/11~3/24 23回	744名
市民大学	公民館	10/14~11/4 3回	179名
女性セミナー	公民館 他	5/19~3/16 10回	149名
公民館分館講座	各分館	4月~3月 25回	153名
移動公民館講座	地域会館 他	4月~3月 18回	269名
根室市文化祭	公民館・文化会館	10/22~11/20	3,734名
姉妹都市提携40周年記念事業 交流記念コンサート	総合文化会館	8/28	853名
子ども書き初め教室	総合文化会館他	1/6~1/12 6カ所	113名
北海道巡回小劇場	歯舞小学校	10/27	113名
釧根「絵手紙」移動展	公民館	7/20~24	341名
道民芸術祭地方祭 ・管内民謡のつどい ・管内文芸大会 ・管内総合芸術展	中標津町 羅臼町 別海町	7/24 9/17 12/15~18	100名 29名 163名
芸術・文化情報提供事業	総合文化会館	毎月1回 12回	—

【博物館活動】

事業名等	場所等	開催日	参加者等
国・道・市指定文化財巡視	根室半島一円	随時	
歴史史跡標柱等巡視	根室半島一円	随時	
資料館特別企画展 「和田屯田兵村のなりたち」	総合文化会館 /図書館	8/13~9/4	500名
資料館移動展 「絵本で会えるねむろのどうぶつ、 ねむろの海と水辺のなかまたち」	総合文化会館 /図書館	5/3~5/15	1,500名
史跡見学会 「学芸員と行く自然と歴史の見学会」 「遺跡発掘見学会」	和田・落石 別当賀1番沢 川遺跡	5/28 9/3	16名
自然観察会「冬の水辺の観察会」等	東梅学習林 /明治公園	11/20 3/18	22名
資料館ラボ 「骨から学ぶ動物の暮らし」	歴史と自然の 資料館	8/20	6名
歴史と自然の資料館講演会 「みんなでつくろう！手作り魚道」 「大黒屋光太夫とラクスマンの歩いた道」	総合文化会館	6/4 11/19	93名
学芸員講演会 「根室の縄文・この10年でわかったこと」等	総合文化会館	3/17	60名
ねむろマチカドミュージアム展示	道の駅スワン 44 大地みらい信 金本店 望郷の家	4月~3月 年2回、展示 内容を更新	-
学校及び放課後教室と連携した出前講座	小学校等	4月~3月	490名 11回
藤野家文書解説会	総合文化会館	4月~3月	178名 23回

【スポーツ活動】

事業名等	場所等	参加者等	備考
第2回根室市長杯卓球選手権	青少年センター	39名	
第28回根室市子ども会バドミントン大会	青少年センター	40名	団体11チーム31名、個人9人

第49回根室市総合体育祭	青少年センター他	905名	16種目
第21回市民健康マラソン大会	青少年センター～市道牧の内線折返	70名	幼児～高齢者
第24回市民ソフトバレーボール大会	青少年センター	109名	17チーム
第43回根室市フットサル大会	青少年センター	351名	48チーム
第35回北方領土ノサップ岬マラソン大会	瑤瑤小学校～市役所ほか	486名	ハーフ 234名 10km 163名 3.7 km 89名
第60回根室市スケート大会	総合運動公園スケートリンク	96名	
第59回厚床-根室駅伝競走	旧厚床小～市役所	76名	一般6チーム 高校5チーム
第51回根室市子ども会卓球大会	青少年センター	36名	団体10チーム 個人36名
「ねむろギネス」に挑戦！記録会	河畔グラウンド他	11名	2種目
ふまねっとサポーター養成講演会	総合文化会館	16名	
トレーニング機械指導者養成講習会	温水プール	161名	毎月1回開催
ふまねっと・スポーツ吹矢教室（介護予防事業）	福社会館	30名	
小学生スケート教室	総合運動公園スケートリンク	25名	
スポーツ吹矢教室	大地みらい信金曙支店会議室	7名	
ミニテニス公認審判員資格取得講習会	青少年センター	26名	
NHKジュニアサッカー教室	運動公園サッカー場	90名	
桑田真澄少年野球教室・スポーツ講演会	青少年センター 総合文化会館大ホール	64名 395名	
Aiプロジェクト稲葉篤紀少年野球教室	青少年センター	58名	

学校開放事業	小・中学校	6,599名	小学校3校 中学校4校
スポーツ少年団活動支援事業	小・中・高生	765名	16団体 団員603名 指導者162名
根室市スポーツ賞並びにスポーツ奨励賞表彰式	総合文化会館	91名	スポーツ賞1個人 奨励賞2個人
第1回・第2回チビっ子水泳教室	温水プール	8名	
第1期・第2期とんぎょコース水泳教室	〃	86名	
とんぎょ中級者水泳教室	〃	23名	
やまべコース水泳教室	〃	5名	
第1期・第2期ひまわり水泳教室	〃	289名	
第1期・第2期のんびり水泳教室	〃	20名	
第1期・第2期・第3期・第4期・第5期らくらく水中運動教室	〃	84名	
第1期・第2期さわやか水中運動教室	〃	31名	
第1期・第2期・第3期・第4期大人の水泳教室	〃	19名	
第1回・第2回アクアビクス講習会	〃	26名	
第1期・第2期脂肪燃焼コース	〃	25名	
サブインストラクター養成講習会	〃	4名	
大人の初めてプール教室	〃	10名	
幼児ひよこさんコース	〃	10名	
幼児ぺんぎんさんコース	〃	10名	
夏休み短期水泳教室（低学年・高学年）	〃	46名	
温水プール無料開放事業	〃	1,620名	

第1回・第2回水泳指導者研修会	//	6名	
総合型地域スポーツクラブ「ねむろコミュニティスポーツくらぶ」による各種事業の開催	北斗小体育館で週1回の定期活動	会員50名	三世代会員3家族
ファミリー登山	武佐岳	29名	市民も対象
春国岱自然観察と清掃活動（及び焼肉交流）	春国岱	24名	
カヌー体験	別当賀川	12名	1回実施
乗馬体験	根室乗馬クラブ	27名	2回実施
楽しいピンポンの集い	青少年センター	41名	市民も対象
楽しいミニテニス交流会	青少年センター	7名	初心者の部
AED救命講習	根室市消防署	6名	

【施設整備関係】

事業名等	事業内容	事業費 (単位:千円)
運動広場整備事業	暗渠排水管敷設工事	11,232
温水プール整備事業	機械室熱交換器等改修	4,806
スケートリンク整備事業	照明灯安定器取替	1,404
社会体育施設整備事業	パークゴルフ場スタート台整備	1,080
市営球場整備事業	トイレ屋根防水、窓取替、換気設備改修	940

【図書館活動】

事業名	開催日	参加者数	備考
ちいさい子のおはなし会	毎週火曜	48回 参加人数 666人	乳幼児 345人 大人 321人
土曜おはなし会（ボランティア）	毎週土曜	45回 参加人数 531人	ボランティア延べ人数 119人
こどものつどい	年5回	5回 参加人数 378人	子ども 210人 大人 168人
「親子読書会」の育成	通年	例会参加親子延べ 362人	2会・15組=34人

各種「本展示コーナー」開設	随時	回数 31 回 展示図書 2,959 冊	「H28 年度文学賞受賞の本展」他
一般・高齢者向け図書館サービス「図書館カフェ」	6～2月	回数 5 回 (6/25・8/28・11/3・12/4・2/11) 参加者数 計 270 人 (図書館ボランティア・協力者 計 34 人)	
高齢者図書お届けサービス	毎月	高齢者施設 7ヶ所 (老人福祉センター・特養はまなす園 他) 7施設：93件／3,348冊配本	
雑誌スポンサー制度	通年	スポンサー登録企業 5社・団体＝10雑誌	
移動図書館車の定期巡回	通年	市内 31 ステーション (火～金) 巡回日数 157 日 利用者総件数 7,081 件 貸出冊数 80,072 冊	

施策評価

- 「成人式」は、新成人で組織する実行委員会が、スライドショー・恩師からのビデオレターを企画・準備から編集・上映までを行い、また、式典終了後に、新成人が10年後の自分あてに手紙を出すことを企画・実施し、団体活動をとおして社会性を培うことができた。
- 青年活動に対しては、根室市青年サークル連絡協議会が実施する交流事業や国内研修事業を支援するとともに、若ものの学園で着付けや料理講座などを開催し、青年の社会教育活動参加の機会提供に努めた。
- 別当賀夢源館は市民の自主的な生涯学習活動を促進する場として、社会教育関係団体をはじめ、各学校や各少年団の宿泊研修や合宿等の活動支援のほか、町内会や婦人部の利用もあり有効活用が図られているが、社会教育関係団体や学校のクラス行事、少年団等の利用が7月～9月の夏期間に集中しており、冬期間の利用促進が課題となっている。
- 各種団体や管内の団体と連携して、市民が主体となり活動する地域の文化振興を目指し、「シルバー合唱団体交流演奏会」や「グループ美術展」など、日頃の活動の成果を舞台上や展示で発表する機会を提供することができた。
- 「舞台芸術鑑賞事業」は、鈴木雅之や北海道歌旅座のコンサートを開催し、優れた芸術鑑賞機会の充実を図ることができた。
- 北海道教職員美術展「地方移動展 in 根室」や「二科会写真展根室巡回展」など全道的に優れた芸術作品を鑑賞する機会を提供することにより、市民が心の潤いを得られる事業を実施することができた。

■ 「みんなでオンステージ in ねむろ」は、関係団体と連携して実行委員会を組織し、日頃の活動の成果発表や参加機会の提供を図ることができた。

今後とも、関係団体及び関係機関との連携の下、事業の推進を図っていく必要がある。

■ 「寿大学」や「女性セミナー」、「市民大学」では、社会の変化に対応し主体的に学び続けるため、運営委員会を組織して学習内容を協議し講座の開催に努め、また、分館講座では落石地区老人クラブや海鮮工房霧娘（きりっこ）との共催により市民ニーズや地域課題を踏まえ、健康管理や料理講座などを開催することができた。

■ 「根室市文化祭」では、文芸部門や展覧部門、ステージ部門において、市民が制作した創造性豊かな、根室のすばらしい郷土の文化が披露され、文化関係団体と協働し文化祭の開催を積極的に支援することができた。

■ 昨年の黒部市でのジョイントコンサートに続いて、根室市で開催された「姉妹都市提携 40 周年記念事業交流記念コンサート」では、実行委員会を組織し開催された第九と北国賛歌の交流コンサートを支援し、迫力ある合唱の鑑賞機会提供に努め、合唱を通じた文化交流が図られた。

■ 各種の学習機会や情報を提供し成果をあげており、今後は指導者の育成・発掘や、各世代における学習ニーズに応じた新たな学習プログラムの検討、さらに、学習成果をいかに地域活動につなげていくかが課題である。

■ 市内には、国、道、市が指定する文化財をはじめ、多数の文化遺産が所在しており、その保護や管理については、関係者、外部委員と意見を交わしながら適切に進めることができた。

■ 国、道、市が指定する文化財については、適切な保護や管理に資するべく、定期的な巡視を実施した。特に、カラフトルリシジミの巡視では不法採取者の逮捕協力することができた。

■ 国指定史跡については、草刈等の環境維持に努め、市民や観光客の来訪に配慮した整備を実施した。また、和田屯田、牧の内文化遺産の説明板を設置し、文化遺産をめぐる広域のルート化に努めた。

■ 市内在住の考古学者である北構保男氏が所蔵していた北方資料 1, 243 箱分（埋蔵文化財）を受納し、嘱託学芸員として任用した元筑波大学教授の前田潮氏とともに、保存と公開に向けて資料の分類整理作業を進めることができた。

■ 「市民にわかりやすく」を目標に市内周辺の自然や歴史の調査・研究を行い、その成果を自然観察会や史跡見学会、講演会等の各種事業を通じて、市民に学習機会を提供することができた。

- 和田屯田入地 130 年の節目に特別企画展「和田屯田兵村のなりたち」を総合文化会館と図書館で開催し、市民の方々に周知することができた。
- 次世代の子どもたちに「ふるさと根室」を知る機会として、学芸員が学校等に出向いて解説する講座を積極的に行い、体験等を通じて郷土学習の普及を図ることができた。
また、子どもの日のつどい前後に図書館と連携して移動展「絵本で会えるねむろのどうぶつ、ねむろの海と水辺のなかまたち」を実施した。
- 大地みらい信用金庫からの浄財で設置した、資料館のサテライト展示である「ねむろマチカドミュージアム」の展示内容を定期的に更新し、史跡や文化財等の情報を市民に幅広く周知することができた。
- 当市には天然記念物、史跡など文化遺産が多数あり、それらを市民の学習、観光客の誘致のために有効活用することができた。
- 子どもたちの体力向上と健やかな成長を目的に開催している小学生陸上競技大会は、3年生以上を対象に、トラックとフィールドで8種目の競技を予定していたが、荒天の影響により、2年連続の中止となった。参加者が減少傾向にあること、及び記録も低下していることから、引き続き小学校と連携し、参加促進や競技力の向上に向けた取組が必要である。
- 総合体育祭は年に一度のスポーツの祭典として、各種スポーツ大会やニュースポーツなど16種目実施した。5年前からニュースポーツフェアを新たに導入し、参加者の中から既存団体に加入するなど底辺拡大につながった。
- 「総合型地域スポーツクラブ」として7年目の活動を開始した、「ねむろコミュニティスポーツくらぶ（ぶらっと）」（会員小学生から高齢者まで50名）の活動は、定期活動をはじめ一般市民も対象とした様々なイベントを通して、多世代交流や地域コミュニティの輪が広がった。今後も会場の確保や指導者の派遣など、自主活動を尊重しながら支援するとともに、市街地以外の地域にも設立できるよう支援に努めていく必要がある。
- 小学生スケート教室は、1・2年生の初心者を対象にスケートの基本を指導、教室終了後、市スケート大会に積極的に参加するなど、大きな成果があった。
- トレーニング機械指導者養成講習会は、ウェイトトレーニングの理論や、機械の操作方法を習得するとともに、指導者の養成に資するものであるが、トレーニング機械の利用者が固定化の傾向にあることから、利用促進に向けた取組が必要であり、また、利用ニーズに応じたトレーニング機器の更新も課題である。
- 地域ぐるみでの健康づくりとコミュニティの向上を目的に実施している「ふまねっと」については、サポーター養成講習会を開催し、新たに16名の指導者が誕生したほか、有資格

者で組織する「ふまねっと根室」の会員拡大にもつながる等、着実な事業推進が図られている。

- 介護福祉課との連携事業である「ふまねっと・スポーツ吹矢教室」（介護予防事業）は、教室修了後に既存の団体に加入して継続して活動する参加者もいる等、高齢者の健康づくりに効果的な事業であり、今後も継続開催していく必要がある。
- 競技人口の減少等により、活動が停滞している競技種目（団体）もあることから、体育協会など関係団体と連携し、今後どのような支援が可能であるか検討し対応していく必要がある。
- 温水プールについては、平成28年度まで「一般社団法人根室スポーツ振興協会」を指定管理者として、市民が水泳に触れる機会を増やすための工夫を行い、管理運営にあたった
- 水泳を幅広い年齢層に親しんでもらえるために、幼児3、4歳（年少）から大人までを対象とした各水泳教室を実施した。

実施にあたり、市民から寄せられる要望を多く取り入れ、年間事業の作成、年齢や参加者に合った教室内容の充実に努めた結果、教室の参加者は平成27年度から118名減少となったものの、有資格者の指導員を配置し、専門的な指導を行うことにより、特に小学1年生～3年生を対象とした「とんぎょコース」では、初歩の背泳ぎの習得率が100%に達し、他の教室でも習得率は高い結果であった。

- 水泳の普及・振興と水泳の生活化を推進するため、本年度も無料開放や臨時開館事業を実施し、利用機会の増加を図った。平成29年度から、指定管理を市直営管理とするが、更なる利用拡大に向け、参加者が楽しめる多種多様な事業、教室を提供することが必要である。
- 社会体育施設整備については、平成28年度においては5事業を実施し、利用者のスポーツ環境の向上に寄与することができた。

また、多くの施設で老朽化が進んでおり、整備要望の高い施設もあることから、今後とも各種制度の活用も視野に入れながら、安全性や緊急性、市民要望を考慮しながら計画的に施設整備を進めていく必要がある。

- 総合体育館建設については、根室市総合体育館整備市民委員会を設置し、基本構想の策定に向けた会議を2回開催した。今後は、「市民・利用者の意向調査」等に取り組んでいく必要がある。
- 「2016・第70回読書週間」行事の一環として、大人にも絵本に親しんでいただくため、「大人のための絵本セラピー®」を開催し、25名が参加して絵本の読み聞かせとワークショップを実施した。

絵本の力を借りて、その人のありのままを引き出す、大人のための「ふれあいと気づきの

ワークショップ」を開催し、参加者からは「おどろき」・「本当の自分の発見」・「感謝」の声があった。

- 昭和47年度から継続実施している「1年生親子読書会」は、少子化等に伴い、近年の応募が少ない状況を考慮し、昨年度から実施している「セカンドブック事業」と連動させて、「1・2年生親子読書会」として募集を行った結果、6組12名の親子で発会し、今年度末で7組14名となった。

より多くの会員を獲得するため、「1・2年生親子読書会コーナー」を1階閲覧室の絵本コーナーに設置し、例会時に紹介した本等の展示・貸出や次回例会の日程のお知らせなどを行い、活動周知に取り組んだところ、当該コーナーに配本した全てが貸し出されるなど利用が伸び、また、例会では次年度以降（独立後）の活動に大きな力となるよう、工作などのワークを多く取り入れて親子の自主的な活動を促した。

- 図書館ボランティアと協働開催している大人・シニア向け図書館サービス「図書館カフェ」は、図書館への親しみとくつろぎを提供するサービスとあわせて、「館長の大人のための読み聞かせ」のプログラムを追加して5回開催した。

読み聞かせの時間帯に参加者が増える状況となったこと、さらには、参加記録カードを作成・配布し、大人にも参加する楽しさと読書の楽しみ支援につなげることができた。

- 読書機会と読書環境の提供と読書普及を図る高齢者施設への「高齢者図書お届けサービス」は、初年度の5施設から7施設にサービス拡大して展開しており、市内の高齢者施設のご理解とご協力を得て、毎月定期的に配本を行っている。

- 「雑誌スポンサー制度」は5社・団体から10誌のスポンサー登録をいただいたが、登録促進PR等の効果がなく、平成28年度中の新規登録がなかったことから、さらなる資料提供の拡充のため、企業・団体等へ「雑誌スポンサー制度」の宣伝効果と地域貢献に結びつく活動であることを広く周知し、登録を働きかけていく必要がある。

- 各種「本展示コーナー」にて、多様な所蔵図書資料を紹介し、日常的な読書への興味喚起を促しており、利用者の多種多様なテーマに対応することとその工夫、弾力的な展開がいっそう強く求められている。

- 平成27年度、図書資料貸出数が初の18万冊を超え、年間貸出数で過去最高を記録したが、平成28年度は、対前年度比、人口は外国人住民を含めて578人減、貸出数6,445冊減となり、179,126冊の貸出数となった。

学識経験者の意見（総評）

○ 丸 山 マサル 氏

（１）「確かな学力向上」に向けた取組みの推進

・「根室市確かな学力向上に関する取組方針」に基づいた、家庭での学習習慣の必要性を保護者に訴えた結果はどうだったのか。結果の検証が必要ではないか。

・学力は、中間層が少なく下位層の者が多いため、全体的に低い水準となっているのではないだろうか。

・全体的な学力向上も必要であるが、上位者には更にのばす工夫を、下位者には家庭学習の習慣化を考える等、別々に対策が必要である。低学年から家庭学習を習慣化するためには、家庭の協力を得ながら一緒に取り組む事が必要である。

・体力・運動能力の低下は、自然環境の整っている根室市においては憂慮すべき事である。

スクールバスでの通学や、市内の学校は小・中共に親の送迎が多く見られ、児童生徒の歩く機会が減っていると同時に、放課後もゲームやスマートフォンに時間が取られ、外で遊ぶ時間が少なくなっていると思う。体力を向上するため家庭との連携が必要であると思う。

・理科備品の整備を計画的に行うことは必要なことである。しかし、備品の調達時期が遅く必要な時期に間に合わなかったり、転勤により活用できる教員がいない等、無駄になっていることは無いだろうか。

（２）「豊かな人間性の育成」に向けた取組みの推進

・人事交流等により教員の異動年数が早くなっており、地域を知る教員が居なくなっている。

十分に地域を知る事で地域や保護者との連携をスムーズにし、トラブルを減らす事に繋がると思う。逆行するかも知れないが、一律化した教員の異動を一考する必要は無いだろうか。

（３）特別支援教育の充実

・特別支援教育を１校集中型ではなく各学校への分散型を行っていることは、親の負担も減り幼少期から慣れ親しんだ友達と共に学ぶことも出来る等、安心感も出る。この面からも根室市の特別支援教育は、かなり充実していると思う。

・きめ細かい特別支援教育が進めば進むほど、支援を必要とする児童生徒は増加する。

障がいを持つ児童生徒も日常的に生活するために就職をしなければならないが、就職する

ための技能を身につけるためには、地方で高等教育を受けなければならず、親と子ども達にとって大変な負担となる。地域経済の落ち込みの中、親の経済的な負担は計り知れない。

今後も、特別支援を必要とする児童生徒の増加が見込まれる中、親や児童生徒が安心して就職するための技能を身につけられる、道立の特別支援学校高等部の設置に動く時期ではないだろうか。

- ・乳幼児教育から一貫して見守る相談室が設置されたことは評価できる。この相談室の機能を生かすために専門職の配置を検討して頂きたい。

(4) 教育効果を高める教育環境の整備・充実

- ・「根室市立小中学校適正配置計画」に沿った計画の推進を早急に行い、人口減少・地域経済の疲弊等を考慮した教育環境の整備を考えて頂きたい。

- ・一括調理・配送を行える学校給食調理施設の新設を考えて頂きたい。

- ・特別支援教育でも述べたが、道立の特別支援学校高等部の誘致に努力して頂きたい。

(5) 地域で子どもを育てる環境づくりの充実

- ・「教えて地域の先生」事業は、「子どもは地域で育てる」環境づくりに大いに貢献している。

更にボランティア講師を拡充し、核家族化した子ども達に異世代間交流による心の教育の推進に努力して頂きたい。

(6) 歴史・文化・スポーツ振興と社会教育活動の充実

- ・冬季スポーツの一拠点であるスケートリンク場の整備が必要である。アスファルトのひび割れや木枠の腐食で水を貯められない状況にあり、リンク整備に支障をきたしている。

- ・平成 29 年度国体軟式野球の予選が開催されたが、全道から参加された選手には申し訳ない施設での試合であり、「スポーツ宣言都市」として計画的な球場整備を行って欲しい。

- ・パークゴルフ場の費用対効果は大きく、利用率は全道一であり、利用過多によりコースの維持が出来ない状況を考えるとき、又、健康寿命延伸の観点から新しい施設を考えて欲しい。

- ・温水プールの指定管理者から平成 29 年度より根室市直営の管理に戻すことは「スポーツ宣言都市」を掲げている市として素晴らしい決断であったと思う。

- ・総合体育館の建設計画が進められているが、スポーツ振興の拠点であるので早急に進めて頂きたい。

学識経験者の意見（総評）

○ 原 田 純 子 氏

（１）「確かな学力向上」に向けた取組みの推進

・子どもたちの学力向上については、繰り返し学習、自宅での復習が欠かせません。

学力が平均に達していないということは、平均値が低い子供たちが多いということだと思いますので、習熟度別指導を強化していく事が重要です。

学ぶことは本来楽しいことであるので、わかる授業をどう広めていくかを期待します。

・夏休み学習サポート教室の宿泊学習の開催で参加者が少ないのは残念ですが、参加した子供たちの感想はどうなのでしょう。楽しいと感じた子が多ければ、次回はもっと人が集まると思いますが、別当賀夢原館は市内から遠いので、今後は市内の施設を使うなどして、是非参加者を増やし結果につながることを期待します。

・朝読書、朝学習、補習授業を全ての小中学校で実施したことは評価できます。この取組みが今後は成果に現れてくると思います。

・すべての中学校で職場体験を実施したことを評価します。体験は学ぶという面のすべてにおいてキーワードであると思います。今後も協力事業主を増やし、多様な職場体験が出来るよう望みます。

・子どもの基礎学力の向上を図ることは、根室市の未来に向けてとても重要なことであると感じています。地域全体で子ども達が健やかにのびのび育つ環境を整えていく事を強く望みます。

（２）「豊かな人間性の育成」に向けた取組みの推進

・スクールカウンセラーの配置で高い評価が出ていることから、今後は光洋中学校、柏陵中学校にも配置されるよう期待します。

・「いじめ」は人権に対する想像力の欠如が問題ではないかと思います。大人の意識にも差があることから問題に発展することが多いと思いますので、教育行政でも人権擁護を重要な施策としていただきたいです。

・北方領土教育については、語り部の方に協力をお願いして、根室の子どもたちに北方領土を身近な問題として捉えてもらいたいです。

(3) 特別支援教育の充実

- ・特別な支援を要する児童生徒に対しては、今後も一人一人のニーズに応じた支援を行うよう希望します。
- ・「子育てファイル” りんくす・ねむろ”」を中学生までの全戸に配布したことは評価できます。各家庭で活用することを期待します。
- ・特別な支援が必要な子ども達が、高学年になっても親元から学校へ通えるような環境の充実にも積極的に取り組んでいただきたいと思います。

(4) 教育効果を高める教育環境の整備・充実

- ・ICTの活用による校務支援システムについての導入検討がされているようですが、情報化社会が今後ますます広がっていくことが見込まれるので、必要だと思えます。但し、ICTを利用することにより、教職員の負担が増すようであれば本末転倒なので、十分な討議と設備の充実を望みます。
- ・学校給食は量より質の時代になってきています。衛生面からも新たな給食施設は必要と思いますが、なるべく学校近くの冷めない距離に設置してもらいたいです。さらに地産地消の推進を期待します。

(5) 地域で子どもを育てる環境づくりの充実

- ・働く親が増えている現状では、子どもの放課後活動がより重要になっていると思えます。
西浜児童会館が1月から再開されたことは良かったと思えます。老人福祉センターと併設されている施設なので、地域のお年寄りとの自然な交流も生まれ、利用する子ども達の生活環境がより充実することと思えます。今後も指導員体制の充実に努めてください。
- ・地域の方々を講師としていろいろ事業を行うことは、子ども達が学校関係以外の人たちと触れ合える良い機会だと思います。コーディネーターの立場は大変だと思いますが今後も続けていただきたいと思います。
- ・ブックスタート事業と7か月児健康相談の会場を図書館に変更したことは、初めて図書館を利用する親子の敷居を低くしていると思えますので評価します。
- ・「セカンドブック事業」も身近に本のある環境づくりに役立っていると思えます。
読む力が学力向上の一端を担うことになると思えますので、今後は学校図書館の整備も並行しながら、子どもたちの読書環境の充実の推進を望みます。

・全国的な少子化の傾向ですが、根室も、年々、子どもの数が少なくなっています。根室の未来を考えると少子化はあらゆる面で影響を及ぼします。

根室が子育てで充実した環境になるよう、予算増を検討して頂きたいです。将来を担う優秀な人材が根室へ戻り活躍できる環境を、根室市と共同でぜひ実現させていただきたいです。

(6) 歴史・文化・スポーツ振興と社会教育活動の充実

・「成人式」は、新成人自らが組織する実行委員会の企画で、心に残るものとなっていると思います。また、毎年、成人式に出席する成人は礼儀、態度が良いと感じます。

・北構氏から寄贈された埋蔵文化財を常設で見学できるような施設整備を望みます。

・日本百名城の選定による「根室半島チャシ跡群」の「日本百名城スタンプ」の設置場所が資料館になっていますが、資料館のホームページには記載されていないので、整備して来場者の増加につなげていただきたいと思います。

・図書館カフェは、利用者の方々には好評ですが、まだまだ周知が足りないと思います。会場が2階で階段を上るのが億劫で利用しない市民もいるのではないかと思います。

年に一度くらいは1階の一部もカフェとして使うような取り組みをしてみたいかがでしょうか。

・館長の「大人のための読み聞かせ」は好評でしたので、今後も司書によるこういう機会を提供していただきたいと思います。

・「雑誌スポンサー制度」の普及については、登録を促すための工夫が必要です。

・「大人のための絵本セラピー」は、読書普及の新しい取り組みと思います。今後もこういう行事を取り入れて頂きたいです。

・黒部市と交流した北国賛歌は相互の文化交流に大いに役立ったと思います。今後はスポーツ交流の他に文化交流などの機会を増やしていくことを望みます。

・スポーツ少年団では各分野で全道、全国大会に出場する子供が増えています。指導者に恵まれれば結果につながるものが立証されているので、今後も支援が必要です。

指導者の育成も重要だと思います。

学識経験者の意見（総評）

○ 島 津 享 泰 氏

（１）「確かな学力向上」に向けた取組の推進

・根室市は、若手教員の割合が非常に多いと聞いております。各学校では、大変熱心に教育活動を行っていただいておりますが、年齢構成の適正化には今後も努めていただきたいと思っております。また、指導教員の派遣等で、若手教員の指導力向上にも努めてもらいたいと思っております。

・学力向上等補助教員の配置は、児童生徒個々のニーズに応じたきめ細かな指導につながる大変すばらしい取組だと思っております。多方面に人材確保の要請は行っていることと思っておりますが、教員の確保には全力を注いでほしいと思っております。

・小学校5年生から英語の教科化、外国語活動は、小学校3・4年生に前倒しとなるようなので、グローバル化に対応した外国語活動の充実に向けて、外国人指導助手や講師の十分な派遣を今後も進めてほしいと思っております。

・体力・運動能力を向上させるために、子どもの遊びが多様化しており、体を動かす機会が減少していると思っております。PTAとしても、登下校の車での送迎について考え、徒歩通学を奨励するなどの方法を考えていかななくてはならないと思っております。学校と家庭で連携して取り組んでいく必要があると思っております。

（２）「豊かな人間性の育成」に向けた取組の推進

・いじめの問題に関しては、スマートフォン等により陰湿化している現状が報道されております。子どもが親や先生に気軽に相談できることが大切だと考えます。

また、利用の仕方の約束事について各家庭で確認していただくよう、学校と連携してPTAからの働きかけも必要であると考えます。

・不登校の児童生徒数が増加していると同っています。適応指導教室等の対応を今後もお願いいたします。引きこもり傾向の強い児童生徒への対応に関しましては、学校と家庭の連携だけでは難しい状況があることも伺っております。行政側からの適切な家庭へのアプローチが必要だと思っております。

- ・不審者による多数の声かけ事例について、学校から連絡がありました。先生方に巡回をしていただいたり、警察にも巡視していただきましたが、より一層の安全体制の確立をしていただきたいと思います。

(3) 特別支援教育の充実

- ・特別支援教育支援員や介助業務員の配置は、支援を必要とする児童生徒の学習等において効果があると思います。手厚い指導が受けられるように、支援員の確保には十分に力を注いでほしいと思います。

- ・子ども発達支援事業などの専門的支援を受ける機会は、とても大切だと思います。今後もこのような機会を確保できるように努めていただきたいと思います。

- ・「個別の教育支援計画 りんくす・ねむろ」の全家庭配布による取組は、素晴らしいと思います。また、各家庭において内容や活用等への理解度に温度差があるように思います。

根室市からのより一層の働きかけをお願いいたします。

(4) 教育効果を高める教育環境の整備・充実

- ・各学校の施設の耐震化・老朽化対策は、児童生徒の安全を守るためにも極めて重要なことだと考えます。計画的な整備をお願いします。

- ・ICTの利活用について、校務支援システムの導入は是非推進していただき活用を進めていただきたいと思います。

(5) 地域で子どもを育てる環境づくりの充実

- ・留守家庭児童会の存在は、仕事をしている保護者としては大変ありがたいです。指導員の確保等、大変な部分がありますが、体制の充実に努めていただきたいと思います。

- ・児童生徒が地域から学ぶことは大変意義があることだと思います。「教えて地域の先生」等の地域人材の活用をさらに進めていただき、子どもたちの参加意欲を喚起する企画を実施していただきたいと思います。

- ・小学校1年生児童に対して行われた「セカンドブック事業」は、親子で本を選ぶなど、親子の会話も広がり、大変好評だったと聞いております。活字離れが叫ばれる中、大変素晴らしい機会であると思います。今後も継続して取り組んでいただきたいと思います。

(6) 歴史・文化・スポーツ振興と社会教育活動の充実

- ・成人式は、今後も新成人で組織する実行委員会が主体となって作り上げ、成人としての

自覚や、将来の根室を背負って立つ等の意義ある式となることを望みます。

- ・別当賀夢原館は大変良い施設だと思います。近年バス代が高騰しているため、学校の予算では利用が難しいと聞いております。バスを使い利用出来るよう予算を考慮していただきたいと思います。

- ・伝統文化・郷土芸能体験プログラムや子ども書き初め教室など地域の人材を有効に活用した事業は、児童生徒にとって有効な学習となっていると思いますので、今後も継続してほしいと思います。

- ・市文化祭やコンサートなど、質の高い芸術・文化にふれる機会が増えるように、とりわけ児童生徒に、本物に触れる機会が提供されることを望みます。

- ・「ふるさと根室」を知る機会として、学芸員が学校等に出向いて行う出前講座は、体験等もでき、大変良い取り組みだと思います。

- ・根室市小学生陸上競技大会については、開催が出来なくとても残念です。小学生が陸上競技に取り組む機会が少ないので継続した事業の開催をお願いいたします。

- ・小学生スケート教室は、初心者の児童にとって大変成果があり素晴らしいです。根室市営リンクを用いた各小学校での授業での活用を進めていただきたいと思います。

- ・温水プールの児童生徒の利用拡大に向けて、利用機会の増加や、各種水泳教室の実施に努めていただきたいと思います。

- ・社会体育施設の整備に関して、老朽化の進んでいる施設についての安全性を最重要事項として整備をお願いいたします。

- ・総合体育館の建設は、スポーツ活動の拠点とすることができるだけではなく、各種大会等の誘致なども行うことができると考えます。早期実現を切に望みます。